

令和7年度
運営に関する計画
【最終評価】



大阪市立北鶴橋小学校
令和8年2月

1 学校運営の中期目標

学校目標「心ゆたかな子ども～よく考える子 助け合う子 進んでやる子～」

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

令和6年度学校アンケートにおいて、肯定的回答が、「学校は楽しい」93%、「友だちのよいところがわかりますか」97%、「学校のきまりを守れていますか」90%であった。

令和6年度小学校学力経年調査児童質問紙において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答は90%であった。

不登校児童の年度末の校内調査における割合は0%であったが、欠席日数が多い児童もいる。今後も月1回の生活指導連絡会兼いじめ・不登校対策委員会をもとに「予防的生活指導」を行い、全教職員で児童を見取り、児童が話しやすい環境づくりに努めていく。

教職員と児童の信頼関係を積み重ね、常に学校全体でチームとして対応していくことを通して、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90.1%以上にしていく。

不登校についても不登校対策委員会での教職員の共通理解や、家庭との連携を深め、不登校児童率が前年度水準になるようにしていく。区役所、子ども相談センター等、外部機関との連携も積極的に行う。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和6年度の大阪市学力経年調査の国語科での標準化得点は、学校全体では100以上を達成することができた。しかし、5年生に関しては指標を若干下回る結果になった。

令和6年度学校アンケートにおいて肯定的回答が、「学校の勉強はよくわかりますか」98%、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、47.8%であった。

令和6年度の大阪市学力経年調査の国語科では、「話すこと・聞くこと」が課題となった。そのため、授業力向上に向けた研究や、週に2回北鶴タイムでの継続した「聞き取り」「読み取り」の基礎学力の向上に取り組むことで、小学校学力経年調査における、国語の平均正答率について、前年度の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和7年度の平均を前年度以上にしていく。(令和6年度 4年 1.19%、5年 1.05%、6年 0.96%)以上にする。

令和7年度の大阪市学力経年調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を(令和6年度 47.8%)前年度以上にする。そのため、主体的・対話的で深い学びの授業や、協働的な学びの場を設け、学校全体で授業改善を行う。

【学びを支える教育環境の充実】

学習者用端末の使用は、朝の「心の天気」の入力から協働学習ツール、デジタルドリル、学習アプリなど、さまざま場面で活用し、使用機会が増えている。「心の天気」に関しては1年生から入力する習慣が身に付いている。このことから学習者用端末を日常的に使用することができている。

令和7年度は、授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、前年度以上にしたい。(令和6年度 89.3%)

本校において、校務支援システムを活用した校務のデジタル化が進み、教員の長時間勤務は大阪市平均と比較すると大幅に下回っている。令和6年度、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合は100%を達成した。

令和7年度も引き続き、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。【令和6年度 79.5%】
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【令和6年度 0%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント以上向上させる。【令和6年度 4年 1.19%、5年 1.05%、6年 0.96%】
- ② 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を47.8%以上にする。【令和6年度 47.8%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の89.3%以上にする。【令和6年度 89.3%】
- ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を100%にする。【令和6年度 100%】

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

（取組内容①）

いじめに対する取り組みに関しては、令和6年度から毎年指標となる数値を高めてきた。今年度も目標を上回り、最も肯定的な回答は、経年調査では96.5%、学校アンケートでは92.7%に達した。毎月、生活指導連絡会兼いじめ・不登校対策委員会において全児童に関する情報共有を行い、丁寧に見取りを進めてきた結果であると言える。さらに、「心の天気」「相談申告機能」を毎日活用し、児童の心を日々見取っていることも有効であった。

（取組内容②）

不登校に対する取り組みに関しては、昨年度に引き続き、不登校在籍比率0%を達成した。しかし、不登校につながりそうな児童もいるため、児童に対する共通理解や保護者との連携、さらには外部機関との連携も引き続き大切にしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

（取組内容①）

小学校学力経年調査における国語科の平均正答率対全国比に関しては、同一母集団と比較した結果、4年では-0.13%、5年では+0.03%、6年では-0.08%という結果になった。目標には及ばない学年もあったが、朝の学習や北鶴タイムでの全校一斉学習は、次年度も継続し、児童の確かな学力向上につなげたい。また、デジタルドリルや朝子ども新聞デジタル、コグトレオンラインなど端末活用も継続し、個別学習の定着を図る。

（取組内容②）

小学校学力経年調査における話し合う活動に関する項目では、目標に1.1%届かなかった。ペアやグループ、班などで話し合い活動をしたり、端末を活用したりして協働学習にも多く取り組んでいる。しかし、話し合いを広げたり深めたりする過程までには至らなかった。今後も、自己の意見を持ち、話し合い活動に臨み意見を述べ合えるような支援や手立てを工夫する。

【学びを支える教育環境の充実】

（取組内容①）

教育DXの推進に関しては、年間活用率（12月までの集計）95.5%となり目標を達成した。始業前から端末を立ち上げ、不具合を確認するなど学習環境を整えたことで授業での効果的な活用推進につながったといえる。また、学校全体での様々な取り組みを通して児童のICT活用スキルが飛躍的に高まった。

（取組内容②）

働き方改革推進プランに掲げる基準1を満たす教員の割合100%を達成することができた。専科制、校務支援システムを活用した校務のデジタル化、ペーパーレス化、会議の精選が進み、ゆとりをもって業務を行うことができた。また、教職員が一つのチームとしてワークライフバランスを保ちながら教育を推進できる学校づくりも進んでいる。本年度大阪市が策定した働き方改革アクションプランや働き方ビジョンも参考にしながら、働きやすい職場環境づくりを更に推進していく。

(様式例2)

大阪市立北鶴橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 年度目標 ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。【令和6年度 79.5%】 ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【令和6年度 0%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 「いじめはどんな理由があってもいけないことである」ことを理解し、一人一人を大切にすることを心がける。	A
指標 学校アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことである」の最も肯定的な回答を90.1%以上にする。(令和6年度 90%)	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 毎月、不登校児童について共通理解する場を設定し、全教員で対策を講ずる。	B
指標 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を0%とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① ・学校アンケート結果の数値は、指標であった90.1%以上を上回った。これは、日々の教員による生活指導や関連付けた教科指導、年間2回実施の「いいところみつけ週間」などの取り組みの成果といえる。また、「いいところみつけ」では、自分のよいところや友だちのよいところを意識することで、自己肯定感の向上につながり、自分や友だち・周りの人を大切にしたいという心が育まれた。一方、別の回答をした児童や、児童間でのネット上のトラブルなど、気になる点もある。引き続きいじめは絶対にいけないことであり、許されないことであるという指導の徹底が必要である。 ② ・毎月の生活指導連絡会で、児童の様子について共通理解し、組織的に対応することができた。児童アンケート「学校は、楽しいですか」の項目では、約95%の児童が楽しいと感じている。児童が安心して学校で学ぶことができているということであり、毎月の生活指導連絡会の重要性が確認できた。 ・対応が必要な児童には、視点を変えて声掛けをしたり、関わったりすることにより、学校全体で対応することができた。 ・登校しにくい児童に対しての対応を考えていかなければならない。(不登校予備軍)

次年度への改善点

- ① ・日々の指導、いじめの予防的指導、「いいところみつけ」等を重ね、今後も組織的な対応を継続する。
- ② ・今後も生活指導連絡会などの共通理解できる場で、全教員で登校しにくい児童の実態を把握し、対応する。
 - ・不登校予備軍とされる児童は、引き続き本人・保護者の気持ちに寄り添いながら、関係諸機関・専門機関と連携を図り対応する。
 - ・「不登校の定義」を正しく認知し、不登校についての認識を高めるための研修を行う。

(様式例 2)

大阪市立北鶴橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 年度目標 ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント以上向上させる。【令和6年度 4年 1.19%、5年 1.05%、6年 0.96%】 ② 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 47.8%以上にする。【令和6年度 47.8%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 国語科を中心に基礎学力の定着を図り、教職員が連携して、一人一人の学力を向上させる。 ----- 指標 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、「4年 1.20%、5年 1.06%、6年 0.97%」以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「確かな読みの育成」の授業の実現に向けた授業改善を図る。 ----- 指標 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 47.8%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① ・目標値にはわずかに及ばない学年もあったが、北鶴タイムでの読み取りプリントやきくきくドリル、navima を利用した学習を行った結果、基礎学力の定着が図られた。特に「読み取り・聞き取り」の領域では一定の成果が見られた。 ・研究教科を国語科とし、計画的に授業研究を行う中で確かな学力を培うための指導法が工夫された。また学級での指導だけでなく、特別支援学級や通級指導教室とも連携を取りながら、きめ細やかに指導ができた。 ・学力の向上は、生活習慣と密接しており、課題があると感じられる児童もいる。 ② ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は 46.7%で指標を満たすことはできなかった。「自分の考えを深めたり、広げたりする」ことが難しいと感じている児童が多く、最も肯定的な回答にしにくかったと考えられる。しかし、大阪市の割合は 41.6%であり、本校の割合は低いものではないと考える。また、最も否定的な「当てはまらない」と回答した児童が0%の学年が増えたことは、これまでの取り組みの成果と

いえる。

次年度への改善点

- ① ・北鶴タイムでの取り組みを継続して行い、基礎学力の定着を図る。
 - ・「書くこと」についての活動を北鶴タイムや授業の中で計画的に取り入れる。また、三行日記、授業の振り返り、要約など書く内容を検討する。
 - ・家庭との連携を継続する。
- ② ・引き続き、教科授業に限らず、あらゆる学習活動において、ペアやグループ等、様々な形態の話し合い活動を積極的に取り入れて、考えを交流する機会を多くもつようにする。
 - ・子どもたちが考えを深めたり、広げたりできたと実感できるような手立てを考える。

(様式例 2)

大阪市立北鶴橋小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 年度目標 ① 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の89.3%以上にする。【令和 6 年度 89.3%】 ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を 100%にする。【令和 6 年度 100%】	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーションの推進) 心の天気の入力、デジタルドリルや SkyMenu 等を朝学習や学習活動で使用する。	A
指標 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の90%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり] ゆとりの日の定時退勤、退勤目標時間の設定、業務の分担や業務の精選の工夫をし、ワークライフバランスの保たれた組織づくりを行う。	A
指標 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を100%にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①・心の天気の入力は習慣として定着してきている。使用率も 90% を達成することができている。 ・各教科においてどの学年も積極的に ICT を取り入れることができていた。(大型テレビの活用、発表ノート、PowerPoint、写真撮影など) ・ICT を活用した研修 (Canva や新しい児童用端末の使い方) などを積極的に行った。 ・ICT を活用した授業は児童だけではなく、教職員にとっても活用の幅を広げる機会になった。 ②・会議の精選、SSS の活用、空き時間の確保等でゆとりをもって業務ができていた。また、ゆとりの日や定時退勤の日を設定することで、時間を意識して業務を行うことができた。職員間でのチームワークがとれており、業務を一人で抱え込むことがない職場環境ができている。 ・業務の比重に少し偏りがある。また、持ち帰って対応しなければいけないこともあり、

時間外で業務を行う場合がある。

次年度への改善点

- ①・心の天気に変化が見られた児童への声掛けを継続して行っていく。
 - ・端末が更新されたので毎日の持ち帰る→充電する→学校に持ってくるといった習慣をつけるとともに家庭での端末の扱いや、活用の仕方についても検討していく必要がある。
 - ・ICT を効果的に活用した授業の研修を定期的に行っていく。
 - ・各学年に合わせた年間指導計画を立てて行っていく。
 - ・各学年での端末活用事例を紹介する場を設ける。
 - ・教職員によって知識の偏りがあるので研修の場を増やしていく。
 - ・休み時間のルールや著作権などの情報モラルの計画を立て指導していく必要がある。
(端末が持ち帰りになったため、家庭での使い方も指導する必要がある)
- ②・次年度も取り組みを継続し、ワークライフバランスを大切にすることができる職場環境を推進する。
 - ・統合に向けての業務が増えることを考え、会議や準備などを最小限にし、計画的に業務を行うようにする。
 - ・校務分掌、教科・領域グループを活用し、校務の分散を図る。